



川崎市

統計情報

令和元年版

川崎市 統計データブック



川 崎 市

発刊にあたって

川崎市は大正13年に約5万人の市として誕生し、戦後の高度経済成長期における急速な人口増加を経て、政令指定都市となった直後の昭和48年には100万人を超え、平成29年4月には150万人を突破しました。そして、令和元年5月には152万6,630人と、神戸市の人口を上回り、新しい時代の幕開けとともに6番目に大きな都市へと成長しました。

平成の30年間を振り返ると、バブルの崩壊に伴い、転出が転入を上回る時期もあったものの、人口増加が続き、立地の優位性も手伝って人口は約1.3倍に増加しました。産業面においても、我が国を代表する工業都市から、製造拠点としての重要性は残しつつも、研究開発拠点や、環境先進都市として重要な地位を確立するなど変貌を遂げています。

一方で、65歳以上人口の割合が8%から20%に上昇するなど、本市でも例外なく、確実に高齢化が進んでいます。

課題や変化を柔軟に捉えて、チャンスに変えてきた川崎の歴史を誇りに感じながら、新たな変化へと対応していくために、統計情報により状況を的確に把握することがますます重要となってきます。

この「統計データブック」は、「川崎市統計書(平成30年版)」及び「大都市比較統計年表(平成29年版)」などから、市民生活に関わりが深い統計情報を中心に、体系的に整理し、グラフや解説を加えてわかりやすく編集しています。

本冊子を通して、多くの皆様に活気あふれる本市の現況について理解を深めていただければ幸いです。



令和元(2019)年10月
川崎市長 福田紀彦

令和元年版 川崎市統計データブック 目次

I 国勢調査 100年－川崎市の昔と今－		1	38		火災発生件数	45
1	国勢調査のあゆみ	2	39		交通事故発生状況	46
2	川崎市の昔と今	4	40	子ども・学校	認可保育所の概況	47
			41		小学校・中学校の概況	48
			42	福祉・健康	生活保護の概況	49
			43		介護保険の概況	50
II 市勢データ		7	44		出生と死亡	51
1	人口	8	45	住居	着工新設住宅	52
2	人口の推移	9	46		住宅の概況	53
3	区別人口	10	47	選挙	選挙	54
4	人口の自然増減と社会増減	11	48	財政	市税収入額	55
5	年齢別人口	12	49	市民意識	市民要望・評価と定住状況	56
6	昼夜間人口	13	14	「ちょっと一服」	川崎市民の消費傾向	57
7	労働力状態	14	15			
8	外国人住民人口	15				
9	婚姻と離婚	16	III 大都市データ		59	
10	事業所（民営）	16	1	人口・世帯数及び面積	60	
11	産業別事業所数及び従業者数	17	2	人口動態	60	
12	区別事業所数及び従業者数	18	3	年齢別人口	61	
13	区別の産業別事業所数	19	4	有業者	61	
14	区別の産業別従業者数	20	5	事業所（民営）	62	
15	従業者規模別の概況	21	6	工業（従業者4人以上の事業所）	62	
16	資本金階級別の概況（会社企業）	22	7	商業	63	
17	農業	22	8	貿易	63	
18	農業概況	23	9	住宅	64	
19	区別の農業概況	24	10	消費物価地域差指数	64	
20	工業	24	11	市（都）民経済計算	65	
21	工業概況	25	12	治安及び災害	65	
22	区別の工業概況	26		「ちょっと一服」	平成の川崎市 ～変わったこと、変わらなかったこと～	66
23	産業別の工業概況	27				
24	従業者規模別の工業概況	28				
25	商業	28				
26	商業概況	29				
27	卸売業の概況	30				
28	小売業の概況	31				
29	百貨店・スーパーの概況	32	IV 川崎市近隣市区データ		67	
30	貿易・経済	32	1	川崎市近隣市区地図	68	
31	入港船舶	33	2	データ一覧	69	
32	海上出入貨物	34				
33	卸売市場	35	V 基礎データ		71	
34	賃金・労働時間	36	1	川崎市	72	
35	有業者	37	2	川崎区	73	
36	一般職業紹介状況	38	3	幸区	73	
37	経済活動別市内総生産（名目）	39	4	中原区	74	
		40	5	高津区	74	
32	都市生活基盤	39	6	宮前区	75	
33	水道	40	7	多摩区	75	
34	下水道	41	8	麻生区	76	
35	市バスの運輸状況	42				
36	主要駅の1日平均乗車人員	43				
37	ごみの処理状況	44				
	刑法犯認知件数	44				

利用上の注意

端数処理の関係上、各数値の総数と内訳の合計が一致しない場合があります。
統計表中の符号の用法は次のとおりです。

「0」、「0.0」……単位未満

「—」……皆無又は定義上該当数字がないもの

「▲」……マイナス又は比較減を表わす

「X」……該当数字はあるが発表をさしひかえたもの

「…」……数字が得られないもの